

### 【竹内結乃】

私は、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを改めて知ることができました。語り部の方の話は、辛く苦しい事実ばかりでしたが、目をそらさずに、伝えていかなければいけないと思います。世界にはまだ、原子爆弾を所持している国があります。一日でも早く廃絶しなければまた同じような悲劇が起こってしまいます。原爆投下から74年たった今だからこそ、唯一の被爆国として原爆の恐ろしさを伝えていかなければいけないと思います。そのために、私はまず、身近な人に伝えていくことから始めようと思います。



### 【都築颯斗】

広島で原爆や平和について学び、想像以上の恐ろしさや悲惨さを感じました。資料館の遺品や写真、語り部の方の話を聞いて、戦争は絶対にあってはならないと思いました。僕は平和式典で子ども代表の「自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです」という言葉を聞きました。中学生の自分にもできる大切なことだと思いました。これからも平和な世界が続くように、研修で学んだことをいかして、自分の周りの人たちを笑顔にして、戦争や原爆のことを語り継いでいきたいです。

### 【東谷朔流】

原爆ドーム（広島産業奨励館）の屋根は、銅でできていたため、熱線で一瞬にして溶けてしまいました。爆発から1秒で広島産業奨励館は崩れ落ち、現在の原爆ドームの形が残っていると考えられています。インターネットなどで事前に調べて広島に行くことで、原爆の恐ろしさや悲惨さをより理解することができました。今回学んだことを、私は早速家族に話しました。同じように、いろいろな人に話をし、原爆の恐ろしさや危険さを伝えていきたいです。



### 【布目海依】

僕は、今回の研修で戦争の悲惨さを改めて知りました。戦争を二度と起こさないために、核兵器の廃絶などを進めていく必要があります。今、この時代に生きる僕たちは、戦争という事実を風化させることのないよう、学び、考え、広めることが大切ではないかと思いました。僕が研修で訪れた原爆ドームは、多くの外国人の方がいました。僕らは、被爆国として世界にも原爆の悲惨さを伝えなければいけないと、強く感じました。